

平成23年度（第5期事業年度）決算の概要について

平成24年9月18日

北海道公立大学法人 札幌医科大学

1 はじめに

本学は、平成19年4月に地方独立行政法人法に基づく公立大学法人となり、今回、第5期目の財務諸表について平成24年9月3日付けで、設置者である北海道知事の承認を受けました。

この財務諸表は、企業会計原則を基本にしつつ、公立大学法人特有の会計制度を加味した「地方独立行政法人会計基準」に基づき作成したものであり、本学の財政状況と運営状況を示すものであります。

(注) 財務諸表は、貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書、利益の処分に関する書類、行政サービス実施コスト計算書及び附属明細書で構成しています。

2 財務諸表の概要について

(1) 財政状況

平成24年3月31日現在における本学の財政状況は、次のとおりです。

(資産)

資産の合計額は、約501億円（対前期2億円増）で、うち、土地、建物、工具器具備品等の固定資産が約419億6千万円、現金及び預金等の流動資産が約81億3千万円です。

(負債)

負債の合計額は、約125億円（対前期2千万円減）で、うち、資産見返負債、長期借入金等の固定負債が約58億8千万円、未払金等の流動負債が約66億2千万円です。

(純資産)

純資産の合計額は、約375億9千万円（対前期2億2千万円増）で、うち、北海道からの出資金である資本金が345億8千万円、利益剰余金が約38億円です。

(2) 運営状況

平成23年度における本学の運営状況は、次のとおりです。

(費用)

経常費用は、約295億8千万円で、主なものとして教育研究費等が約23億円、診療経費が119億7千万円、人件費が約145億円です。

教育研究費等については、対前期1億8千万円増となっていますが、これは、目的積立金財源で教育研究機器を整備したことによるものです。

診療経費については、対前期4億5千万円増となっていますが、入院と外来患

者の増加などで、医薬材料費や委託費用等が増加したこと及び減価償却費が増加したことによるものです。

人件費は、対前期6千万円増となっておりますが、これは附属病院における医療職員の増員や共済費の掛け率上昇による法定福利費の増加によるものです。

(収益)

経常収益は、約303億1千万円で、主なものとして、北海道から交付された運営費交付金の収益が約61億1千万円、授業料等の収益が約8億4千万円、附属病院の診療等の収益が約212億8千万円です。

(損益)

経常収益から経常費用を差し引いた経常利益は、約7億3千万円（対前期2億8千万円減）です。

経常利益については前期と比べて減少していますが、これは平成22年度以降に整備した医療機器に係る減価償却費や目的積立金財源で整備した教育研究機器に係る経費など、費用が増加したことによるものです。

なお、受託研究費など外部資金の獲得による教育研究経費への財源の確保についても、引き続き努めているところであります。

(総利益)

当期総利益は、約8億5千万円です。うち、約6億1千万円については、経営努力の結果として中期計画に定めた使途に充てるための「教育・研究及び診療の質の向上並びに組織運営の改善目的積立金」に積み立てることとして、今回、北海道知事の承認を受けております。

3 おわりに

今後も、北海道から交付される運営費交付金は毎年減額される見込みとなっており、依然として厳しい財政運営が予想されます。このような厳しい環境ではありますが、教育・研究・診療活動の充実・発展のため、より一層の経営努力を行い、財務内容の改善・充実に努めて参りますので、今後ともご支援とご理解を賜りますようお願いいたします。